

令和 8 年度 第 1 回 TAITO フューチャースクール検討委員会

開催日	令和8年5月7日(木) 午後4時00分から午後5時30分まで
場所	台東区役所 6 階 教育委員会室
出席委員	高橋委員、垣野委員、土肥委員、小出委員、田中(康)委員、渡邊委員、佐々木委員、山田委員、中島委員、仲田委員、増嶋委員、田中(繁)委員
配布資料	① 資料1 「TAITO フューチャースクール」検討委員会設置要綱 ② 資料2 「TAITO フューチャースクール」検討委員会委員名簿 ③ 資料3 「TAITO フューチャースクール」ロードマップ ④ 資料4 「新しい時代の学校創り 中間報告」に関する教員への意見募集について ⑤ 資料5 「新しい時代の学校創り 中間報告」に関する意見 ⑥ 資料6 「新しい時代の学校創り 最終報告」(素案) ⑦ 資料7 研究モデル校報告(上野小学校) ⑧ 資料8 研究モデル校報告(駒形中学校) ⑨ 参考資料1 教育課程企画特別部会 論点整理(令和7年9月25日) ⑩ 参考資料2 台東区立学校における生成 AI の利活用に関するガイドライン第2版

■議事概要

1. 挨拶

佐々木委員より、本検討委員会が 3 年目の最終年度にあたること、および ICT を学校教育の基盤的ツールとして活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、新しい時代の学校の実現を図ると挨拶が行われた。

2. 委員自己紹介

出席委員および事務局職員により、自己紹介および着任の挨拶が行われた。

3. 議題

(1)事務局からの説明

ア 検討委員会の目的・スケジュール等 / イ 中間報告に関する意見 / ウ 最終報告(素案)

事務局より、設置要綱、ロードマップ、および教員アンケートの結果に基づき、今年度の進め方について説明を行った。主な内容は以下の通り。

- ・ 持続可能な社会の創り手となるための資質・能力の育成を目的とし、令和 9 年 2 月 22 日に上野小学校にて報告会を実施予定である。
- ・ 教員アンケートでは ICT 活用への期待がある一方、依存等への懸念が示された。
- ・ 最終報告(素案)において、学校間格差の解消や生成 AI ガイドライン第 2 版(児童生徒の利用開始)の内容を反映させた。

【主な質疑・意見】

- ・ 増嶋委員からは、中学校入学時の情報活用能力の差異を移行期間中に平準化していきたい旨の意見があった。
- ・ 高橋委員長より、ICT 活用は手段であり、目的はすべての児童生徒により高い資質・能力を育むことにあるとの見解が示された。
- ・ 土肥委員からは、学校間格差の評価において、平均値のみならず、箱ひげ図等を用いて分布を可視

化すべきとの提案があった。

- 田中(康)委員より、最終報告書は、モデル校以外の教員が参照した際に、教育環境整備の重要性や、具体的な実践イメージが理解できる内容とすべきとの提案があった。
- 渡邊委員より、最終報告書を通じて、管理職に対して将来的な見通しを明確に伝えていくことが重要との見解が示された。
- 高橋委員長より、ICT 活用に対する捉え方の分類について見解が示されるとともに、DX の本質は単なるデジタル化ではなく、非同期・分散・協働という新しい世界観への移行であるとの指摘があった。

(2)研究校からの報告

ア 上野小学校

田中(康)委員より、児童および教員のウェルビーイング向上と、児童の資質・能力の最大化を目的とした実践が報告された。主な内容は以下の通り。

- Google Workspace for Education のチャット活用により、非同期・分散・協働を検討し、教員の生産性向上に向け、各自のライフスタイルに合わせた柔軟な働き方を推進した。8 年度は、高橋委員長からの指導の他、教員自身の研究授業を通じて、モデル校及びデジタル活用実践校としての取り組みを進める予定。

イ 駒形中学校

渡邊委員および甲賀研究主任より、生徒の主体的な学びの変容と校務効率化について報告がなされた。主な内容は以下の通り。

- 生徒が学習手段を自律的に選択するハイブリッドな学びを推進した。今後、教師は生徒の伴走者としての役割を目指す。
- 校務においてスプレッドシート等を活用することで、朝の打ち合わせ時間を大幅に短縮し、生徒と向き合う時間を確保した。

【主な質疑・意見】

- 小出委員からは、モデル校の取り組みが教職員の残業削減や意識改革に寄与するとの期待が示された。
- 土肥委員より、柔軟な働き方を認める一方で、責任感の強い教員が過重労働とならないよう、AI の活用等が必要との指摘があった。
- 垣野委員より、学年に応じた学習空間の作り方のレシピ化を検討したい旨の提案があった。

(3)その他(高橋委員長講話)

高橋委員長より、世界や国の動向、先進事例に関する、以下の講話があった。

- 中教審の報告資料をもとに、春日井市における働き方改革に係る取り組みの事例について紹介があった。
- OECD の資料をもとに、教育でのデジタルツールの活用については、施策部門や学校現場等の教育領域を中心に据え、システム部門等の技術領域を従える形が重要であること、学校間の格差解消には、教員の質の底上げが必要であることについて、見解が示された。
- 不登校生徒の生成 AI 活用事例等、個々の児童・生徒に応じた生成 AI の使い方の有用性について、見解が示された。

(4)次回開催予定

令和 8 年 8 月 28 日(金)午後 4 時 00 分から